

玄昌石

Clayston

大自然の息吹きの中で「技」と「誇」と「玄」が  
自然と人間の知恵の調和を奏でる

最高級天然石屋根材

“ 玄昌石 ”

Clayston

美しいヨーロッパの街並には、数百年の間刻み込まれた歴史の風格と落ち着きが感じられます。この街の雰囲気醸し出す要素のひとつに、人々の生活を包んできた天然建築素材の石(スレート)があります。時とともに美しさをましてゆく石の文化。その魅力を日本の建築技法の中に採り入れ、独自の新しい建築文化を育んでゆ�ために…。わたくしたち“雄勝天然スレート”は、明治17年の創業から、天然石盤とともに歩み始め、明治19年には雄勝の屋根職人・篠崎源治郎が渡独、天然スレート屋根技術を習得して帰国しました。まさにこれが日本の天然スレート工事の始まりでした。以後、当社は国産スレートならびに輸入スレートの採掘・加工・供給を専門に行うことになり、国内におけるスレート扱企業のパイオニアとしての誇りとともに、今後もさらに良質なスレート材を供給し続けてまいります。当社のスレートの品質、施工実績をご覧くださいご検討いただけるようお願いいたします。



## ●最高級とされる雄勝石の理由

雄勝で産出される玄昌石は、雄勝石と呼ばれています。学術的には堆積岩の粘板岩に分類されるものです。最大の特徴はその色の美しさ、きめの細かさです。均一なしまった黒は、にぶいつやを合わせ持ち、スレート材として使用した場合には、落ち着きと高級感をかもしだして、建築物の美しさを一層ひきたてる素材といえましょう。

この独特の黒は、粘板岩として形成される過程（水中での堆積時）、現在の北上山地一帯が水没していた頃、その海がよどんでいたことによるものです。その海は酸素が不足して、硫化水素の発生をうながしました。そこでは硫化鉄の微粒ができ、黒い泥となって積まりました。それが現在の黒を決定した理由です。こうした遙か昔の地球のいとなみが、現在のわたしたちに、貴重なスレート材をもたらしてくれる結果となったのです。



木村邸

# 枝

地球創世期より育かれた「雄勝玄昌石」は  
2億5千万年の時間の結晶を生み出しました。  
私たちは、自然創造の「美」を  
技術<sup>わざ</sup>で御応えします。



山形県郷土館・文翔館（旧山形県庁舎）

# 誇



(財) 西日本工業倶楽部 (旧松本邸)

人が心を解きほぐし、深く想い、  
明日への想い、浮かべる所"家"ならば  
心を包む"屋根"は、  
誇り高く、そして気高くありたいと思う。



北九州市旧門司三井倶楽部

# 玄

淡い黒を幾重にも重ねた深遠な墨色。  
漆黒の一步手前で控えた深みのある彩りは、  
単なる黒ではなく  
"住む人"の心に響く"玄"の色。



赤レンガ  
(旧北海道庁舎)

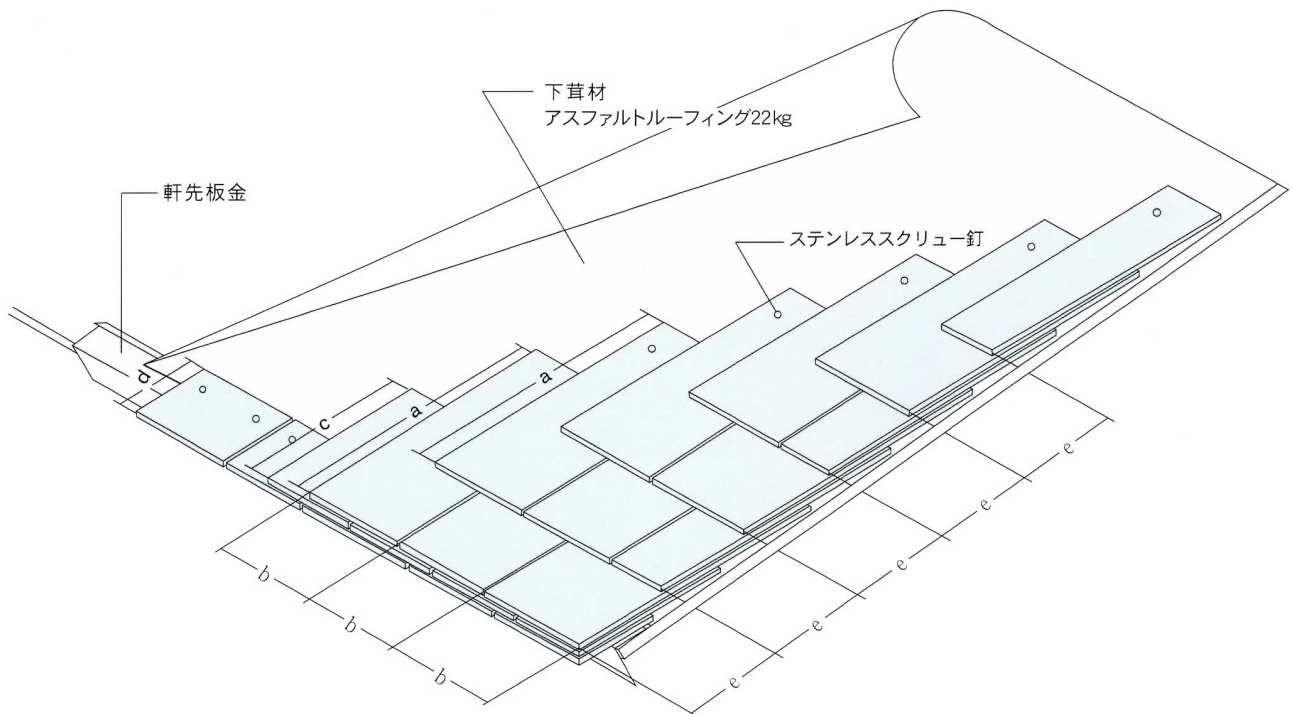


(京都府庁舎旧館)

## ●雄勝のもうひとつの産地としての理由

こうしたスレート材にふさわしい石は、もちろん雄勝の他にも産出します。しかしなぜ雄勝が最高とされるか、それはいい石を産出すること以外にも大きな理由があります。産出された原石はスレート材として加工されなければなりません。ここで特筆されるべき点は、この地が玄昌石との関係において長い歴史を持っているということです。

日本における石の文化のひとつに『硯』が挙げられます。この硯にもちいられる石は、スレート材と同じものが使用されているのです。そして、雄勝は昔から硯の産地として知られている場所です。そこでは、石とともに歩んだ職人たちの高い技術能力が生まれました。雄勝は繊細な加工を要求される硯で、他に地域から一歩も二歩も優れた製品を生み出してきた歴史を持っています。現在、硯のほぼ90%のシェアを有する雄勝。この数字に裏付けされるように、この地の加工技術の高さは、いま、スレート材に活かされることになったのです。質の高い石と優秀な職人の技術との出会い。これが、わたくしたち「雄勝天然スレート」のスレート供給における自信とかけがえのない財産となっているのです。



国内唯一の工場

## 雄勝天然スレート株式会社

宮城県石巻市雄勝町明神明神50

TEL 0225-57-3009 FAX 0225-57-2770

■ 雄勝天然スレート(株) 施工部

## (有)四倉製瓦工業所

宮城県石巻市千石町9-22

TEL 0225-22-1078 FAX 0225-22-1081

E-MAIL [info@yotsukura-kawara.com](mailto:info@yotsukura-kawara.com)

URL <http://yotsukura-kawara.com>